



SIOS Protection Suite for Linux

v8.3.2

リリースノート

2014年12月

本書およびその内容は SIOS Technology Corp. (旧称 SteelEye® Technology, Inc.) の所有物であり、許可なき使用および複製は禁止されています。SIOS Technology Corp. は本書の内容に関していかなる保証も行いません。また、事前の通知なく本書を改訂し、本書に記載された製品に変更を加える権利を保有しています。SIOS Technology Corp. は、新しい技術、コンポーネント、およびソフトウェアが利用可能になるのに合わせて製品を改善することを方針としています。そのため、SIOS Technology Corp. は事前の通知なく仕様を変更する権利を留保します。

LifeKeeper、SteelEye、および SteelEye DataKeeper は SIOS Technology Corp. の登録商標です。

本書で使用されるその他のブランド名および製品名は、識別のみを目的として使用されており、各社の商標が含まれています。

出版物の品質を維持するために、弊社は本書の正確性、明瞭性、構成、および価値に関するお客様のご意見を歓迎いたします。

以下の宛先に電子メールを送信してください。

ip@us.sios.com

Copyright © 2014

By SIOS Technology Corp.

San Mateo, CA U.S.A.

All rights reserved

目次

SIOS Protection Suite for Linux リリースノート	1
はじめに	1
SPS の製品説明	1
LifeKeeper for Linux	1
DataKeeper for Linux	2
SPS コンポーネント	2
SPS コア	2
SPS のオプションリカバリソフトウェア	3
SIOS Protection Suite for Linux Version 8 の新機能	6
バグの修正	12
システム要件	13
SPS の製品要件	13
オプションの SPS リカバリソフトウェアの要件	13
クライアントのプラットフォームとブラウザ	16
インストールおよび構成	16
アップグレード	16
ストレージとアダプタのオプション	16
テクニカルノート	16
pdksh の場所の変更	16
既知の問題	16

SIOS Protection Suite for Linux リリースノート

バージョン 8.3.2

重要!!

本製品をインストールまたは使用する前に、必ずこのドキュメントをお読みください。
このドキュメントには、インストール時とその前後に留意すべき重要な項目に関する情報が記載されています。

はじめに

このリリースノートの対象読者は、SIOS Protection Suite (SPS) for Linux 製品のインストール、設定、管理を行うユーザーです。このドキュメントには、LifeKeeper および DataKeeper の正式マニュアルには詳細に記述されていない重要な情報、たとえば、製品の最終テスト時に明らかになったパッケージのバージョン、指示や手順に関する最終段階での変更点、トラブルシューティングセクションへのリンク、製品の制限、トラブル解決のヒントなどが記載されています。SPS ソフトウェアをインストールして設定する前に、必ずこのドキュメントの内容を確認してください。

SPS の製品説明

LifeKeeper for Linux

LifeKeeper 製品には、Linux 上で動作するファイルシステム、ネットワークアドレス、アプリケーション、プロセスの高可用性を実現する障害検出リカバリソフトウェアが含まれます。LifeKeeper は複数のサーバにまたがった特定のアプリケーションの構成と切り替えをサポートしています。アプリケーションが構成されたサーバには優先順位が割り当てられ、障害が複数発生した場合、この優先順位によってサーバからサーバへアプリケーションを移動する順序が決定されます。

LifeKeeper for Linux は各種システムリソースをスイッチオーバー機能によって保護します。次の種類のリソースの自動リカバリが可能です。

- プロセスとアプリケーション
- 共有ストレージデバイス
- Network Attached Storage デバイス
- LVM ボリュームグループと論理ボリューム
- ファイルシステム (ext3、ext4、reiserfs、vxfs、xfs、nfs) **注記:** btrfs は、現在 SIOS Protection Suite for Linux でサポートされていません。
- 通信リソース (TCP/IP)
- データベースアプリケーション (Oracle、MySQL、PostgreSQL、EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server、EnterpriseDB Postgres Plus Standard Server、Sybase)
- Web サーバリソース (Apache、Apache SSL)

- Samba リソース (ファイル)
- DataKeeper for Linux
- SAP アプリケーション環境 リソース
- Software RAID (md) リソース
- WebSphere MQ リソース
- Postfix リソース

LifeKeeper for Linux は、下記のリソースタイプに対するディザスタリカバリプロテクションを提供します。

- 共有ディスクを使用した Linux Multi-Site Cluster 構成

DataKeeper for Linux

SIOS DataKeeper 製品 :

- ボリュームベースの同期および非同期のデータレプリケーションを提供します。
- 管理および監視のために LifeKeeper Graphical User Interface に統合します。
- システムリカバリ時にソースサーバとターゲットサーバの間でデータを自動的に再同期化します。
- 基礎システムコンポーネントの状態を監視し、障害時にローカルリカバリを実行します。
- 手動によるリソースの切り替えおよびミラーボリュームのフェイルオーバーが可能です。
- 新機能に対応できるよう、ライセンスキーを使用して簡単にアップグレードでき、高可用のクラスタリングと自動フェイルオーバーおよびリカバリを提供できます。

SPS コンポーネント

SPS コア

SPS for Linux がバンドルされ、64bit システム(AMD64、EM64T システム)でのみ稼動しています。

SPS Core Package Cluster には次のインストール可能なパッケージが含まれます。

パッケージ	パッケージ名	説明
LifeKeeper Core	steeleye-lk-8.3.2-6405.x86_64.rpm	LifeKeeper パッケージは、メモリ、CPU、OS、SCSI ディスクサブシステム、ファイルシステムなどの中核システムコンポーネントに関連した障害リカバリソフトウェアです。
DataKeeper Core	steeleye-lkDR-8.3.2-6405.noarch.rpm	DataKeeper パッケージはデータレプリケーション(インテントログを使用する同期または非同期のミラー)を提供します。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

パッケージ	パッケージ名	説明
LifeKeeper GUI	steeleye-lkGUI-8.3.2-6405.x86_64.rpm	LifeKeeper GUI パッケージは、LifeKeeper および DataKeeper の管理および健全性監視用のグラフィカルユーザインターフェースです。
SPS IP Recovery Kit	steeleye-lkIP-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS IP Recovery Kit には、IP アドレスの自動切り替え用のリカバリソフトウェアが備わっています。
SPS Raw I/O Recovery Kit	steeleye-lkRAW-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS Raw I/O Recovery Kit は、raw I/O を使用してカーネルのバッファリングを迂回するアプリケーションをサポートします。
LifeKeeper Man Page	steeleye-lkMAN-8.3.2-6405.noarch.rpm	LifeKeeper マニュアルページパッケージには、SPS 製品のリファレンスマニュアルのページが含まれています。

注記: LifeKeeper 7.5 以降には、steeleye-lkHLP rpm パッケージは含まれていません。steeleye-lkHLP が含むオンラインヘルプは LifeKeeper GUI から起動することが可能です。オンラインヘルプは SIOS テクニカルドキュメンテーション (<http://docs.us.sios.com>) から参照可能です。このドキュメンテーションは LifeKeeper GUI のヘルプメニューから起動することができます。

注記: LifeKeeper 8.2 以降には、CCISS Recovery Kit (steeleye-lkCCISS rpm パッケージ) は含まれていません。HP ストレージデバイス (CCISS) を DataKeeper とともに使用し、v8.2 以降にアップグレードする場合は、アップグレードの前に DEVNAME device_pattern ファイルを設定する必要があります (DataKeeper トラブルシューティングセクションを参照)。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

次のオプションソフトウェアは、記載してあるバージョンのアプリケーション用のリソース定義およびリカバリソフトウェアを提供します。

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS Apache Web Server Recovery Kit	steeleye-lkAPA-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Apache Web Server Recovery Kit を使用することにより、SPS 環境で Apache Web Server ソフトウェアの障害回復が可能になります。
SPS SAP Recovery Kit	steeleye-lkSAP-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux SAP Recovery Kit は、SPS 環境で障害の発生したプライマリサーバーからバックアップサーバーに SAP NetWeaver を復旧する仕組みを提供します。また、他の SPS Recovery Kits と連携して包括的なフェイルオーバー保護を提供します。
SPS SAP MaxDB Recovery Kit	steeleye-lkSAPDB-8.3.2-6405.noarch.rpm	SAP MaxDB Recovery Kit を使用することにより、SPS for Linux 環境で SAP MaxDB データベースの障害回復保護が可能になります。

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS DB2 Recovery Kit	steeleye-1kDB2-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux DB2 Recovery Kit を使用することにより、DB2 データベースインスタンスの障害回復保護が可能になります。SPS は、DB2 Universal Database 製品ファミリと連携し、わずかなダウンタイムで人手を介さずにデータベースサーバの障害を効果的に復旧することにより、DB2 の運用環境に高可用性をもたらします。
SPS Oracle Recovery Kit	steeleye-1kORA-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Oracle Recovery Kit ソフトウェアを使用することにより、Oracle データベースのデータ整合性と SPS によって実現される可用性の向上を結び付ける仕組みが提供され、SPS 環境の Oracle ソフトウェアの障害回復が可能になります。
SPS MySQL Recovery Kit	steeleye-1kSQL-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux MySQL Recovery Kit を使用すると、SPS の障害回復保護機能を MySQL リソースに簡単に追加できます。これにより、プライマリデータベースサーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能になります。
SPS PostgreSQL Recovery Kit	steeleye-1kPGSQL-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux PostgreSQL Recovery Kit は、SQL に準拠した、POSTGRES をベースとするオブジェクトリレーショナルデータベース管理システム (ORDBMS) です。SPS 内で PostgreSQL インスタンスを保護する仕組みを提供します。
SPS Sybase ASE Recovery Kit	steeleye-1kSYBASE-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Sybase ASE Recovery Kit は、Sybase ASE コンポーネントの Adaptive Server、Monitor Server、Backup Server に対し、SPS によるリソース保護を提供するものです。
SPS Postfix Recovery Kit	steeleye-1kPOSTFIX-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux SAP Recovery Kit は、SPS 環境で障害の発生したプライマリサーバからバックアップサーバに Postfix を復旧する仕組みを提供します。
SPS Samba Recovery Kit	steeleye-1kSMB-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Samba Recovery Kit は、異種ネットワーク内の Linux サーバ上の Samba によるファイルと印刷の共有に対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ Samba サーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。
SPS NFS Server Recovery Kit	steeleye-1kNFS-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux NFS Server Recovery Kit は、SPS 環境の Network File System (NFS) ソフトウェアに対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ NFS サーバで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速に指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。

SPS のオプションリカバリソフトウェア

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS Network Attached Storage Recovery Kit	steeleye-ikNAS-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Network Attached Storage Recovery Kit は、SPS 環境の Network File System (NFS) ソフトウェアに対して障害回復保護機能を提供します。SPS のユーザは、エクスポートされた NFS ファイルシステムを SPS 階層のストレージ基盤として使用できます。
SPS Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit	steeleye-ikLVM-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit は、他の SPS Recovery Kit に対して論理ボリュームのサポートを提供します。SPS で保護されたアプリケーションは、ストレージ管理の簡素化、要件変更に応じた動的なボリュームのサイズ変更など、Logical Volume Manager が提供するメリットを活用できます。
SPS Software RAID (md) Recovery Kit	steeleye-ikMD-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS for Linux Software RAID (md) Recovery Kit は、他の SPS Recovery Kit に対してソフトウェア RAID のサポートを提供します。SPS で保護されたアプリケーションは、低コストでのデータ冗長化、SAN 経由でのデータレプリケーション、ストレージ管理の簡素化など、ソフトウェア RAID が提供するメリットを活用できます。
SPS PowerPath Recovery Kit	steeleye-ikPPATH-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS PowerPath Recovery Kit は、EMC PowerPath マルチパス I/O デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SPS Device Mapper Multipath (DMMP) Recovery Kit	steeleye-ikDMMP-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS Device Mapper Multipath (DMMP Recovery Kit) は、DMMP デバイスを使用するアプリケーションおよびファイルシステムを保護します。SPS はそれらのアプリケーションおよびファイルシステムと連携し、保護を提供できるようになります。
Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM) Recovery Kit	steeleye-ikHDLM-8.3.2-6405.noarch.rpm	Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM) Recovery Kit は、Hitachi Dynamic Link Manager Software デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SPS NEC iStorage StoragePathSavior (NECSPS) Recovery Kit	steeleye-ikSPS-8.3.2-6405.noarch.rpm	SPS NEC iStorage StoragePathSavior (NECSPS) Recovery Kit は、NEC iStorage StoragePathSavior v3.3 以降のマルチパス I/O デバイスを使用するアプリケーションを保護します。
SIOS DataKeeper	steeleye-ikDR-8.3.2-6405.noarch.rpm	SIOS DataKeeper for Linux は、SPS 環境に統合データミラーリング機能を提供します。共有および非共有のストレージ環境での SPS リソースの運用が可能になります。

パッケージ	パッケージ名	説明
SPS WebSphere MQ Recovery Kit	steeleye-lkMQS-8.3.2-6405.noarch.rpm	<p>SPS for Linux WebSphere MQ Recovery Kit は、WebSphere MQ キューマネージャおよびキューマネージャストレージサイトに対して障害回復保護機能を提供します。これにより、プライマリ WebSphere MQ サーバやキューマネージャで障害が発生しても、人手の介入なしに迅速にプライマリサーバや指定のバックアップサーバで復旧することが可能です。</p> <p>注記: このリカバリキットでは、同一サーバ上での複数バージョンの MQ (例: MQ Versions 7.0.1 Fix Pack 6 と 7.1 および以降のバージョン) の実行をサポートしません。ただし、MQ の単一インストール内での複数のキューマネージャの保護および <code>mqsc.ini</code> 内の <code>DataPath</code> パラメータの使用についてはサポートしています。</p>
Quorum/Witness Package	steeleye-lkQWK-8.3.2-6405.noarch.rpm	<p>SPS Quorum/Witness Package を使用すると、クラスタを構成しているサーバを判断する調停役として機能するため、各ノードは障害ノードのステータスに関して「セカンドオピニオン」を得ることができます。フェイルオーバー先となることができるノードは、Witness サーバが障害となったノードのステータスに関して同じ意見である場合のみ、リソース起動が許可されます。</p>

SIOS Protection Suite for Linux Version 8 の新機能

製品	機能
このリリース (8.3.2) の新機能	
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 5 Update 11 のサポート (2015/1)
	Community ENTerprise Operating System (CentOS) Version 5 Update 11 のサポート (2015/1)
	Oracle Linux Version 5 Update 11 のサポート (2015/1)
Oracle, Sybase, EC2, Route53	Red Hat Enterprise Linux Version 6 Update 6 のサポート (2015/1)
	Community ENTerprise Operating System (CentOS) Version 6 Update 6 のサポート (2015/1)
	Oracle Linux Version 6 Update 6 のサポート (2015/1)
	バグの修正

製品	機能
このリリース (8.3.1) の新機能	
LifeKeeper Core	Java SE Runtime Environment 7u67 (x64) のサポート
	コミュニケーションパスの一時的な欠落をログに記録するようになりました。
	バグの修正
このリリース (8.3) の新機能	
LifeKeeper Core	Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Oracle Linux のサポート
	/etc/default/LifeKeeper に LKSTOP_FAILOVER_N=1 を設定すると、lkstop -n オプションの動作が、LifeKeeper for Linux v8.0 以前と同じ動きになります。v8.0 以前では、lkstop -n オプションを使用すると "Shutdown Strategy" が "Do not Swtichover Resources" でもフェイルオーバーします。
	バグの修正
Oracle	バグの修正
Postfix	Postfix が全ての IP アドレスで listen する設定をサポートしました。 複数の IP アドレスで listen する設定をサポートしました。
MD	バグの修正
Recovery Kit for EC2、Route 53、Openswan	Amazon EC2 Cross Region 構成のサポート (詳細は、Amazon EC2 Cross Region クイックスタートガイドを参照してください)
このリリース (8.2.1) の新機能	
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 6 Update 5 のサポート
	Community ENTerprise Operating System (CentOS) Version 6 Update 5 のサポート
	Oracle Linux Version 6 Update 5 のサポート
	VMware vSphere v5.5 のサポート

製品	機能
Oracle	Oracle 12c (ASM および pluggable database 機能除く) のサポート
PostgreSQL	EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server 9.3 のサポート
WebSphere MQ	WebSphere MQ v7.5 のサポート
このリリース (8.2.0) の新機能	
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 5 Update 10 のサポート
	Community ENTERprise Operating System (CentOS) Version 5 Update 10 のサポート
	Oracle Enterprise Linux Version 5 Update 10 のサポート
	SLES 11 SP3 のサポート
SPS SAP Recovery Kit	SAP 7.4 のサポート
PostgreSQL	PostgreSQL 9.3 と EnterpriseDB Postgres Plus Solutions Pack 9.3 のサポート
DB2	IBM DB2 Universal Database v10.5、IBM DB2 Enterprise Server Edition (ESE) v10.5、IBM DB2 Workgroup Server Edition (WSE) v10.5、IBM DB2 Express Edition v10.5 のサポート
LifeKeeper Apache Web Server Recovery Kit	Apacheが全てのIPアドレスをリスンする設定をサポートしました。
Recovery Kit for EC2	Recovery Kit for EC2はAmazon Elastic IPを制御する事で、インターネットからフロントエンドクラスターへのアクセスの可用性を提供します。また、ルートテーブルを制御し、Amazon VPC内のクライアントからバックエンドクラスター上のLifeKeeperが保護する仮想IPアドレスへの到達性を確保します。
LifeKeeper Core	バグの修正
DataKeeper	バグの修正
Postfix	バグの修正

製品	機能
バージョン (8.1.3) の新機能	
DataKeeper	バグの修正
バージョン (8.1.2) の新機能	
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 5 Update 9 および Version 6 Update 4 のサポート。
	Community ENTerprise Operating System(CentOS) Version 5 Update 9 および Version 6 Update 4 のサポート。
	Oracle Enterprise Linux Version 5 Update 9 のサポート。
	Oracle Linux Version 6 Update 3 および Version 6 Update 4 のサポート。
	バグの修正
DataKeeper	新しい <code>mirror_resize</code> コマンドは、リソースを削除して再作成せずに DataKeeper ミラーのサイズを変更する機能をサポートします。
	既存の <code>mirror_action</code> コマンドは、オプションの <code>source</code> 引数と <code>target</code> 引数をサポートするようになりました。
	バグの修正
PostgreSQL	EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server 9.2 のサポート。
	バグの修正
MySQL	MySQL Version 5.6 のサポート。
Sybase	Sybase ASE Version 15.7 のサポート。
NFS	バグの修正
Samba	バグの修正
バージョン 8.1.1 の新機能	

製品	機能
LifeKeeper Core	<p>PAM (Pluggable Authentication Module)を使用した GUI 認証ユーザは、システムが使用するのと同じユーザデータベースに対して認証されるようになりました。権限レベルは、グループメンバシップに基づいて割り当てられます。</p> <p>注記: <code>lkpasswd</code> コマンドは LifeKeeper GUI のユーザのパスワードと権限を管理しなくなりました。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux Version 6 Update 3 のサポート。</p> <p>Community ENTerprise Operating System(CentOS) Version 6 Update 3 のサポート。</p> <p>バグの修正</p>
DB2	<p>IBM DB2 Universal Database v10.1、IBM DB2 Enterprise Server Edition (ESE) v10.1、IBM DB2 Workgroup Server Edition (WSE) v10.1、IBM DB2 Express Edition v10.1 のサポート</p> <p>ログフォーマットの改善および整理統合。</p> <p>バグの修正</p>
PostgreSQL	<p>PostgreSQL 9.2 および EnterpriseDB Postgres Plus Solutions Pack 9.2 のサポート</p> <p>バグの修正</p>
MD、DataKeeper、Oracle、および Postfix	バグの修正
Apache、LVM、IP、MySQL、MQ、NAS、NFS、Samba、SAP、SAP MaxDB、および Sybase	パッケージ名の変更によるバージョン番号の増加のみ。
バージョン 8.1 の新機能	

製品	機能
LifeKeeper Core	<p>SUSE SLES 11 SP2 のサポート。</p> <p>LifeKeeper の初期化の標準化</p> <p>SPS Recovery Kits の対話メニュー形式のインストールおよび自動インストールオプションの SPS Recovery Kit を含め、SPS for Linux ソフトウェアは、単一のイメージファイル (sps.img) に含まれています。以前は、各リカバリキットは、個別のイメージファイルからインストールされていました。現在は、Core のインストール時に、提供されているリカバリキットの総合的な最新リストが選択可能な状態で表示され、そのままインストールすることができます。</p> <p>一般的なメンテナンス</p>
DataKeeper	一般的なメンテナンス
DMMP	<p>ログフォーマットの拡張および整理統合。</p> <p>一般的なメンテナンス</p>
PostgreSQL	PostgreSQL 9.1、EnterpriseDB Postgres Plus Solutions Pack 9.1、EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server 9.1 のサポート
WebSphere MQ	<p><code>/etc/default/LifeKeeper</code> の設定による <code>amqiclen</code> の選択的な実行。</p> <p>Queue Manager による Command Server の選択的な起動。</p> <p>DataPath 変数を使用して保護するファイルシステムパスを判断。</p> <p><code>amqiclen</code> の実行を遅延させる設定。</p> <p><code>amqiclen</code> にコマンド引数を指定する設定。</p> <p>Command Server に対する独立した保護レベル。</p>
バージョン 8 の新機能	

製品	機能
LifeKeeper Core	Red Hat Enterprise Linux Version 5 Update 8 のサポート。
	Red Hat Enterprise Linux Version 6 Update 2 のサポート。
	Oracle Enterprise Linux Version 5 Update 8 のサポート(非 UEK カーネル)。
	Community ENTerprise Operating System(CentOS) Version 6 Update 2 のサポート。
	サブシステムのログ機能の強化 (syslog、syslog-ng および rsyslog のログを一元的に記録、イベントごとに一意のメッセージ ID、システム管理ツールによる構文解析を容易にするための一貫したログ記録フォーマット)。
	新しい検索可能なメッセージカタログ (必要に応じて、エラーコードの原因および問題を解決するために必要な処置について詳しい説明を提供)。
	簡単なインストール(単一のイメージファイルを使用)。
Oracle	一般的なメンテナンス
	パフォーマンスおよび拡張性の向上。
	作成および拡張アクションのパフォーマンスの向上。
	LifeKeeper Single Server Protection でのルートファイルシステム上での Oracle 階層の作成機能および listener.ora や oratab のカスタムパスの定義機能などの拡張機能。
	ログフォーマットの改善および整理統合。
一般的なメンテナンス	

バグの修正

下記は、最新のバグの修正および拡張機能のリストです。

バグ	説明
7059	v8.3.1におけるshared library読み込み時のエラーを修正 (v8.3.1には当該不具合への対処が含まれているため、v8.3.1とv8.3.2で機能的な差異はありません)

システム要件

SPS の製品要件

SPS for Linux は「Linux Configuration table」に示す最低要件を満たすすべてのLinux プラットフォームでサポートされます。サポート対象のオペレーティングシステム、アプリケーション、仮想化環境については、SPS サポートマトリックスを参照してください。

注記: Linux サーバ上の SPS と SPS for Windows は、同時には使用できません。

説明	要件
Linux オペレーティングシステム	個々のオペレーティングシステム情報については、「Linux Configuration table」を参照してください。
仮想環境	<p>仮想マシン内で起動するゲスト OS が Linux Configuration Table に記載されているサポート対象のバージョンのうちの一つである限り、SPS for Linux はハイパーバイザーに依存しないように設計されています。以下の仮想環境は SIOS Protection Suite for Linux が展開されている場合の例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Citrix XenServer v5 以降 • KVM • Oracle Virtual Machine (OVM) • VMware vSphere v4、v4.1、v5、v5.1、および v5.5 • Amazon EC2 <p>設定要件および制限の詳細については、<i>LifeKeeper for Linux in VMware ESX Server Virtual Machines, Configuration Guidelines</i> を参照してください。</p> <p>ファイバーチャネル SAN および共有 SCSI クラスタ設定は、KVM および Citrix XenServer 仮想マシン上で動作する SPS for Linux をサポートしません。</p>
メモリ	SPS をサポートするシステムの最小メモリ要件は 512MB です。これは SPS がサポートする Linux ディストリビューションが必要とする最低限の容量です。システムのメモリは SPS が保護するシステム上で動作するアプリケーションに対してサイジングする必要があります。詳細については、アプリケーション設定を参照してください。
ディスク容量	<p>SPS Package Cluster に必要なディスク容量は次のとおりです。</p> <p>/opt – 約 100000 ~ 105000 (1024 バイト) ディスクブロック (インストールするキットに依存します)</p> <p>/ – 約 110000 (1024 バイト) ディスクブロック</p>

オプションの SPS リカバリソフトウェアの要件

次の表は、オプションの SPS リカバリソフトウェアのソフトウェア要件を示しています。

オプションの SPS リカバリソフトウェアの要件

SPS が保護するアプリケーションに適用される追加の要件や制限については、アプリケーション設定を参照してください。

製品	要件
SPS Apache Web Server Recovery Kit	Apache Web Server v2、v2.2、v2.4
SAP Recovery Kit	SAP v7 Enhancement Package 1 および 2、SAP v7.1 および SAP v7.3 SPS NFS Server Recovery Kit v8.1 SPS Network Attached Storage Recovery Kit v8.1
SPS SAP MaxDB Recovery Kit	SAP MaxDB v7.5、v7.6、v7.7、v7.8 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
SPS Postfix Recovery Kit	Postfix ソフトウェアは、それぞれのサーバにサポートされた Linux ディストリビューションをインストールし、設定します。同じバージョンの Postfix が、それぞれのサーバにインストールされる必要があります。 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
SPS Oracle Recovery Kit	Oracle Standard Edition および Enterprise Edition v10g R2、v11g、v11g R2、v12c Oracle Standard Edition One v10g R2、v11g、v11g R2、v12c
SPS DB2 Recovery Kit	IBM DB2 Universal Database v9、v9.5、v9.7、v10.1 IBM DB2 Enterprise Server Edition (ESE) v9、v9.5、v9.7、v10.1 IBM DB2 Workgroup Server Edition (WSE) v9、v9.5、v9.7、v10.1 IBM DB2 Express Edition v9、v9.5、v9.7、v10.1 LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster SPS NFS Server Recovery Kit v5.1 以降 (マルチパーティションを持つ DB2 EEE 用および DB2 ESE 用のみ)
SPS MySQL Recovery Kit	MySQL および MySQL Enterprise v5.1、v5.5、v5.6
SPS PostgreSQL Recovery Kit	PostgreSQL v8.3、v8.4、v9、v9.1、v9.2、v9.3 EnterpriseDB Postgres Plus Standard Server v8.4 および v9 EnterpriseDB Postgres Plus Advanced Server v8.3、v8.4、v9.1、v9.2、v9.3 EnterpriseDB Postgres Plus Solutions Pack v9.1、v9.2 および v9.3
SPS Sybase ASE Recovery Kit	Sybase ASE 15.5 および 15.7
SPS Samba Recovery Kit	サポート対象の Linux ディストリビューションに付属の標準 samba ファイルサービス

オプションのSPS リカバリソフトウェアの要件

製品	要件
SPS NFS Server Recovery Kit	Linux kernel version 2.6 以降 NFS Server およびクライアントパッケージがSLES システム上にインストールされている必要があります。
SPS Network Attached Storage Recovery Kit	NFS サーバまたは NAS デバイス v2、v3、v4 からマウントされた NFS ファイルシステムの NFS バージョン
SPS Logical Volume Manager (LVM) Recovery Kit	Linux Logical Volume Manager (LVM) バージョン 1 または 2 のボリュームグループ および論理ボリューム
SPS Software RAID (md) Recovery Kit	md に基づくソフトウェア RAID デバイス 注記: MD Recovery Kit は、SIOS DataKeeper と併用することはできません。
EMC PowerPath	2.6 ベースの Linux カーネルおよびディストリビューション PowerPath Kit v6.4.0-2: PowerPath for Linux v5.3 またはそれ以降 PowerPath Kit v6.4.0-2 以前: PowerPath for Linux v4.4、v4.5、v5、v5.1 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
Device Mapper Multipath (DMMP)	2.6 ベースの Linux カーネルおよびディストリビューション multipath tools 0.4.5 以降 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です
Hitachi Dynamic Link Manager Software (HDLM)	日立 HDLM のマルチパス I/O 設定を参照してください。 Red Hat および SLES では sg3_utils rpm が必要です。
NEC iStorage Storage Path Savior (NECSPS)	iStorage StoragePathSavior for Linux v3.3 以降 RHEL5 RHEL6 SPS driver package (RHEL4 もしくは RHEL5) Red Hat および SLES では sps-L、sps-S、sps-E、sg3_utils rpm が必要です LifeKeeper v6 以降の Core Package Cluster
WebSphere MQ リソース	WebSphere MQ v6、v7、v7.1 および 7.5 注記: このリカバリキットでは、同一サーバ上での複数バージョンの MQ (例: MQ Versions 7.0.1 Fix Pack 6 と 7.1 以降のバージョン) の実行をサポートしません。ただし、MQ の単一インストール内での複数のキューマネージャの保護および mqs.ini 内の DataPath パラメータの使用についてはサポートしています。
Quorum/Witness Package	quorum/witness モードのクラスタに参加するすべてのノード (witness 専用のノードを含む) には、Quorum/Witness Server Support Package for SPS をインストールする必要があります。

クライアントのプラットフォームとブラウザ

SPS web クライアントは、Java Runtime 環境 JRE 7 update 45 または JRE 7 update 67 をサポートするすべてのプラットフォームで動作します。現在動作が確認されている環境は、JRE 7 update 45 または JRE 7 update 67 を使用した Linux、Windows 2008 R2、Windows 7、Windows 8、Windows Vista 上の Firefox、Internet Explorer および Chrome です。その他の最近のプラットフォームやブラウザは SPS 8.3.2-6405 で動作する可能性がありますが、SIOS Technology Corp では、それらの環境でのテストをしていません。

クラスターで、クライアントマシンの、hosts ファイルのすべてのホスト名とアドレスを明確にする必要があります(通常は `/etc/hosts` または `C:\windows\system32\drivers\etc\hosts` にあります)。それは、クライアントの接続時間を最小にし、DNS 停止時であっても接続することを可能とします。

インストールおよび構成

インストールおよび構成の詳細な情報については、SIOS Protection Suite インストールガイドを参照してください。

アップグレード

LifeKeeper は、LifeKeeper Version 8.1.x および Version 8.2.x から Version 8.3.x にアップグレードすることができます。これらより前のバージョンからアップグレードする場合、それまでのバージョンをアンインストールし、SIOS Protection Suite for Linux を再インストールする必要があります。それまでのバージョンをアンインストールしないで v8.3.x へアップグレードしたい場合には、一度 8.1.x または 8.2.x にアップグレードした後、さらに 8.3.x にアップグレードする方法をとることもできます。

ストレージとアダプタのオプション

共有ストレージ設定において SPS が現在サポートしているディスクアレイストレージモデルやアダプタ、およびそれらの認定の種類の一覧については、ストレージとアダプタのオプショントピックを参照してください。それらのアレイおよびアダプタのドライババージョンやその他の設定要件の詳細については、ストレージとアダプタの設定トピックに記載されています。

テクニカルノート

SPS 環境に関連した構成および動作上の問題点についてテクニカルノートをお読みになることを強くお勧めします。

pdksh の場所の変更

8.1 より前のバージョンの SPS のセットアップスクリプトによってインストールされた `pdksh` の場所が移動されました。`pdksh` は以前は `/usr/bin/ksh` に置かれていました。現在は、`/opt/LifeKeeper/bin/ksh` に置かれています。SPS のセットアップによってインストールされた `pdksh` バージョンに依存する顧客の書いたスクリプト (`/usr/bin/ksh`) はすべて、新しいパスに反映させるよう修正する必要があります。

既知の問題

SIOS Protection Suite for Linux テクニカルドキュメンテーションのトラブルシューティングセクションの既知の問題と制限と、DataKeeper トラブルシューティングセクションを参照してください。